

小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド
 ~ 親子で歩むリスク回避の4つのステップ(後編) ~
 講師用補助資料

教材 URL: <http://www.child-safenet.jp/material/>

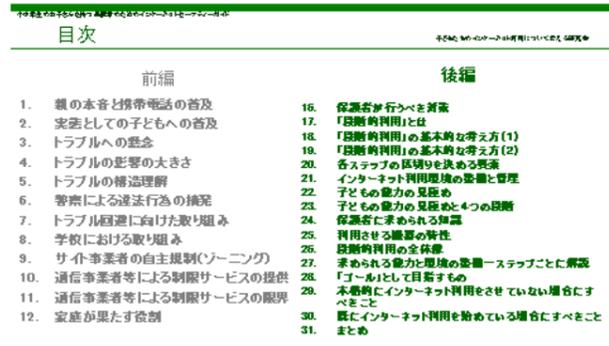
【インターネットセーフティガイドの特徴】

- ✓ 本教材は、保護者を対象とした1時間半程度の入門的な講習での利用を想定して構成されています。
- ✓ 保護者のためのセーフティガイドは、小中学生のお子さんを持つ保護者の方向け(前後編)と、中高生のお子さんを持つ保護者の方向けに、それぞれ事例やサービスの概要等を織り交ぜながら、リスク回避の方法と家庭内での対策について解説しています。受講者の事前の理解度に合致した講習レベルに、アレンジしてご利用ください。
- ✓ 事件事故の例や個別サイトのそれぞれの特徴は、あくまでも保護者の注意を惹き、理解を促進することを目的として紹介しています。事例そのものの紹介にとらわれすぎず、根本にあるリスク回避の基本的な考え方や、子どもとの対話の重要性についてもしっかりと伝えていただくことが講習実施の際のポイントとなります。
- ✓ 後編では、子どもにインターネットを利用させる前に保護者が検討すべきことや、利用時に遭遇するリスクを回避するための手段として、能力に合わせた段階的利用解禁方法を紹介しています。

【本教材、補助資料の使い方】

- ✓ 本教材はPDF形式です。印刷してご利用ください。
- ✓ 「画面イメージ」下部の「●」部分は、そのスライドの重要ポイントです。

画面イメージ	教材のポイント
<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 小中学生のお子さんを持つ保護者のための インターネットセーフティガイド ~ 親子で歩むリスク回避の4つのステップ ~ 後編 </div>  <p style="text-align: center; font-size: small;">子どもたちのインターネット利用について考える研究会</p>	

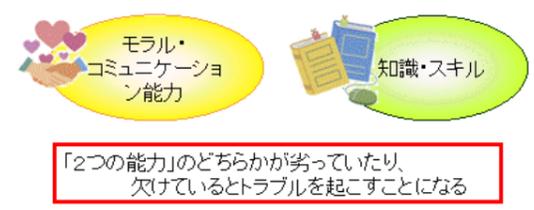
画面イメージ	教材のポイント
 <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">●本教材は「小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド」の後編です。講習の内容や、受講者レベルに応じて組み合わせご利用ください。</p>	
	

画面イメージ	教材のポイント
<p>「段階的利用」とは</p> <p>きちんとした知識や技術を身につけないまま利用すると、未熟な自動車運転と同様、本人や周囲を巻き込む大きな事故につながる可能性がある</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>インターネットも子どもが身につけた(身につけさせた)能力にあわせて、段階的に利用許可を行う必要があるのでは？</p> <p style="text-align: center;">インターネット利用の開始(解禁)を自動車の運転講習に例えると……</p> <p>●インターネットの段階的利用を、同様な段階的習得プロセスを踏む、自動車の運転スキルと対比して説明。</p>	<p>利便性は高いが、不適切な利用(運転)をした場合に人命にも関わるような結果を招くものでありながらも、社会に浸透している存在として自動車がある。インターネット利用にもこれと似たところがある。利便性を享受しつつも、不要なトラブルを抑制(リスクをコントロール)するためには、自動車教習所で実証されている「段階的に経験させる」という手法が一つの参考になる。</p>
<p>「段階的利用」の基本的な考え方(1)</p> <p>自動車講習</p> <p>新運転者同乗して利用 → 別教習所内での利用 → 利用解禁</p> <p>インターネット利用</p> <p>きちんと技術や知識を習得していないと、被害者になるだけでなく、加害者として、周囲を巻き込む大きな事故につながる可能性がある</p> <p>●自動車運転技術の習得プロセスと、子どもの発達段階に合わせたインターネット利用のステップを対比し、どちらもスタート時は、指導者の元で利用を開始し、段階的に能力を身につけ、利用範囲を拡大していく必要があることを解説。</p>	<p>教習所では、たとえ機器の操作が可能でも、いきなり生徒一人で運転させることはしない。また運転操作だけでなく、救命処置の方法や法規、マナー等についても学ぶ。運転操作についても、易しい操作から難しい操作へ、単純な交通(所内)から混合交通(路上)へと、能力を身につけたことが確認できた上ではじめて次の段階へ進むことが許される。その途中では、「無線教習」で教官の同乗無しでの経験も求められる。しかも、それぞれの段階でいくらか高い能力があると思われるも、最短の時間数が定められていて、一定以上の経験も要求する仕組みになっている。こうした教習所の仕組みだけで、レーシングドライバーまでを養成することは期待できないが、事故を起こさずにクルマを運転して目的を達成することができる標準的なドライバーであれば、個人の資質にそれほど左右されることなく育成することが可能になっている。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>「段階的利用」の基本的な考え方(2)</p> <p>正しい使い方を身につけさせるため「持たせる」か「持たせない」ではなく</p> <p>制限サービスを上手に活用し「使ってもよい機能」や「サイト」で区切りながら、段階的に利用させていく</p> <p>Step Up!!</p> <p>●段階的利用を検討する前に、保護者が自分の子どもの利用を解禁するべきか、どんな目的で利用させるのか、必ず検討する必要があり、その上で段階を設定していくことの重要性を説明。</p>	<p>パソコンや携帯電話を用いたインターネット接続について、現実によく見られるのは「何の制限もなく子どもにインターネット利用機器を持たせてしまう」という(圧倒的多数の)あり方。逆にトラブルを恐れ「親元を離れるまで全く持たせない、触らせない」という手法を提唱する動きも出てきている。しかしこのいずれについても、有効とは考えられない。最低限、事故を起こさずに利便性を享受できるレベルの利用者を育てるためには、自動車という「教習所」と同じような考え方で、段階を区切って、一歩ずつ一人前の利用者を育てていくという取り組みが有効なのではないか。自動車の教習所では「直線・カーブ」→「クランク・S字」、「所内」→「路上」へと段階を上げていく。ただし使っているクルマには機能的な制限はほとんど無く、教習の専門家が同乗することで制限を行なっている。インターネット利用では、既に用意されている様々な制限サービスや、パソコン・携帯電話を与える時期、パソコンの置き場所などをうまく利用することで、専門家ではない一般の保護者にも同様の指導や見きわめが可能になる。</p>
<p>各ステップの区切りを決める要素</p> <p>1. インターネット利用環境の整備と管理</p> <p>推進的要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信機器(携帯、PC、ゲーム等)を与える メールの送受信機能の利用を認める インターネット接続機能の利用を認める <p>制約的要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の相手以外でのメール利用は認めない 子どもだけでの利用は認めない 特定のサイト以外の閲覧は認めない(フィルタリング・ホワイトリスト方式) 特定分野サイトの閲覧利用は認めない(フィルタリング・ブラックリスト方式) <p>2. 子どもの能力の見極め</p> <p>モラル・コミュニケーション面 / 知識・スキル面</p> <p>●各段階の区切りを考える際に、保護者が整備を検討すべき利用環境と、見極めるべき子ども能力の要素を解説。</p>	<p>適切に「段階」を区切って利用させるためには、「子どもに与える環境を整える」と、「子どもの能力を見きわめる」ことの二つの要素の両方について、保護者自身が判断出来るようになる必要がある。</p> <p>「環境の整備」とは、そもそもパソコンや携帯電話をいつ子どもに(買い)与えるべきなのかに始まり、家庭内での機器の置き場所(利用を認める場所)や、様々な機能制限サービスの利用について、どのような手段があり、どう組み合わせるべきなのかを指す。</p> <p>また、「能力の見きわめ」については、子どもネット研で提案する4つのステップについて、それぞれのステップで求められる能力と、その有無の見きわめポイントを保護者が把握し、日常生活の中で子どもの成長・学習を促す必要がある。</p>

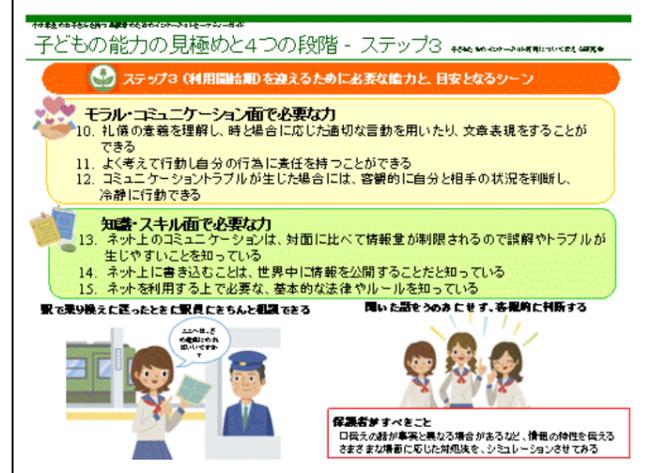
画面イメージ	教材のポイント
<p>1. インターネット利用環境の整備と管理</p> <p>利用できる機能自体を制限する仕組みやサービスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者アカウントごとの権限を設定する(パソコン) ■ ソフトのインストールを制限する(パソコン) ■ インターネット関連機能の利用契約を行なわない(携帯電話)  <p>●子どもの利用を制限する手段として、現在提供されている利用制限機能(ペアレンタルコントロール)の活用を提案。</p>	<p>パソコンや携帯電話等からのインターネット利用自体の機能を制限する手段は、あまり知られてはいないものも含め、安価または無償にて多数用意されている。</p> <p>例えば現在の多くのパソコンでは OS 上で「利用者」「管理者」を区別し、その付与権限に合わせて新規ソフトウェアの導入や利用を禁じることができる。最初はメールやチャットを使わせないなど。ウェブサイト閲覧や発信についてと、フィルタリングの利用でアクセス先サイト種別や利用時間帯のきめ細かな制限が可能。携帯電話でも、メールやウェブサイト閲覧を個別に制限して契約することが可能であり、これらを組み合わせることで、保護者が決めた範囲での利用に限ることができる。</p>
<p>1. インターネット利用環境の整備と管理</p> <p>利用時間のルール策定、管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 家庭内での利用時間に関するルールを作る ■ 制限ソフトや機能(フィルタリング)を用いて、利用時間による制限やパケット量、料金課金による制限を行う <p>利用内容の把握、利用履歴のチェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 閲覧履歴(アクセス履歴)のチェックを行い、利用内容の把握を行う <p>●利用させる上で、親子で定めるべき基本ルールの作成と、利用内容の把握、効果的な導入方法を解説。</p>	<p>テレビやゲームの利用時間を無制限としている家庭が少ないように、インターネット利用を認める時間帯も環境整備の中で重要な要素となる。子どもの生活リズムが乱れないように、家庭内でルールを決め、そのルールをキチンと守ることが大前提。保護者がしっかりと見守り、子ども自身が上限時間を守る習慣ができるまでは、フィルタリングソフト(パソコン)や制限サービス(携帯)を併用することで、確実に利用時間のルールを守らせることも出来る。</p> <p>子どものインターネット利用内容を把握するために、保護者が必要に応じて利用履歴を確認できる体制も作っておきたい。ブラウザの閲覧履歴では、簡単に消去が可能のため、フィルタリングソフト(パソコン)や履歴確認サービス(携帯)を利用することが必要。実際には定期的に履歴を確認するというよりも、「保護者が履歴確認できる」ことを子どもに予め伝えておくことで、抑止的な効果を得るという方法が現実的。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>1. インターネット利用環境の整備と管理</p> <p>利用範囲の制限(フィルタリング)</p> <p>■ 制限分野の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 熱中・時間浪費の可能性のあるサイト (懸賞・ゲーム・動画など) ■ 本邦は成人向きであり、知識・経験・判断力を要するサイト (グラビア・ホラー映画・超常現象・パロディ・極端な主張など) ■ 不適切コンテンツ・サイト (違法・薬物・自殺・出会い系・恐怖・ポルノ・ギャンブル・飲酒・喫煙など) <p>●子どもの発達に応じて、フィルタリングで閲覧制限を検討すべきサイト分野を、大きく3つのグループに分けて解説。</p>	<p>フィルタリングでは複数の分野(カテゴリ)について、個別に閲覧可否の指定をすることができる。</p> <p>これらは概ね、3つのグループに分けて考えることで把握しやすい。</p> <p>一つは熱中や依存の心配があるゲームや動画、懸賞などのサイト群。</p> <p>二つ目は元々大人向けであったり、適切な利用には知識・経験・判断力が求められるグラビアやホラー・超常現象やパロディ、極端な主張などのサイト群。</p> <p>最後が子どもにはふさわしくないと考えられる違法・薬物・自殺・出会い系・ポルノなどのサイト群。</p> <p>ただし永遠にフィルタリングによる保護下には置いておけない以上、例えば第一群については子どもの自己管理能力の高まりに合わせ、また第二群については、成長や判断力・経験の高まりに合わせて、それぞれ適切なタイミングで制限を緩めていくが必要になる。</p>
<p>1. インターネット利用環境の整備と管理</p> <p>利用させる場所と保護者の関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者が隣で一緒に使う、見守る インターネットの利用方法を教えるとともに、予期せぬ危険なサイトとの遭遇を防ぐ ■ 保護者の目が届く場所で使わせる トラブル遭遇時にすぐに相談・対処できるようにする ■ 制限付きで自室に持ち込むことを許す 利用上のルールを子どもとともに作成し、フィルタリングによる見守りを必須とする <p>●利用環境を整える際に、最も重要となる機器の設置及び利用を許可する場所を3段階に分け、保護者のかわり方とともに解説。</p>	<p>家庭内でインターネット利用機器をどこに設置するのも、制限のあり方の一つとして重要な要素と考えられる。</p> <p>最初の段階では、子どものインターネット利用時に保護者が必ず隣に座り、一緒に画面を見ながら使わせる。子どもの危険な行動をすぐに修正することができる。次の段階では、保護者の目の届く範囲で、子どもが一人で画面に向かうことを認める(家事をしながらリビングに置いたパソコンを使わせるようなイメージ)。この形であれば、どのような利用先なのか、保護者がリアルタイムで把握することができるだけでなく、トラブル時に即座に援助することも可能。もし子ども自身が希望し、家庭の事情が許すのであれば、最後の段階として機器の自室持ち込みを許すことも考えられる。ただし保護者による子どもの利用先の把握がぐんと困難になるため、最低でもアクセス履歴の把握の仕組みを備え、保護者が機器の状況を確認することをルールとしておくことが必要。またインターネット利用に伴う子どもの態度などの変化にも敏感になることも求められる。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>子どもの能力の見極め</p> <p>子どもたちにインターネットを利用させる際に育てなければならない「2つの能力」</p>  <p>「2つの能力」のどちらかが弱っていたり、欠けているとトラブルを起こすことになる</p> <p>●子どもたちが、安全かつ有効にインターネットを利用するために、大人が育てていかなければいけない2つの能力と習得時のバランスについて説明。</p>	<p>注意すべき点として、インターネットを適切に使うために必要な能力(スキル)は二種類あり、そのどちらもが欠けては(不足しては)、リスクを回避できないということ。一般に、インターネットに苦手意識を持っている保護者では、「知識・スキル面」に目が向きすぎる、機器操作に自信のある子どもでは「モラル・コミュニケーション能力面」を軽視すぎるという傾向にある。両方をバランス良く育てるように注意が必要。</p>
<p>子どもの能力の見極め</p> <p>能力を見極める4つの段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 🌱 ステップ1 - 体験期(小学校中学年能力相当) 🌱 ステップ2 - 初歩的利用期(小学校高学年能力相当) 🌱 ステップ3 - 利用開始期(中学生能力相当) 🌱 ステップ4 - 習熟期(高校生能力相当) <p>●今回提案する、4つの段階の学齢相当の目安と、活用範囲について。</p>	<p>子どもネット研では、現実利用できるさまざまな制限手段や子どもたちの成長、さまざまなインターネット上のサービスを総合的に勘案して、保護者が「段階」を大きく四つに分けて子どもの能力を把握、見きわめることを推奨する。第一ステップは「体験期」、公立小学校でもパソコンによるインターネット利用が始まる小学校3年生から4年生相当の段階。この時期に家庭でもインターネットに触れ、適切な利用の第一歩を踏み出すことが望ましい。第二ステップを小学校5、6年生にあたる「初歩的利用期」とする。子どもの能力の向上に合わせてメールのやり取りなども認めていく。第三ステップの「利用開始期」と第四ステップの「習熟期」はそれぞれ中学生、高校生相当の段階。自分のホームページを開設するなど、体験の幅を拡げながら、リスクを抑えた適切な利用方法を順に身につけていき、高校卒業後に親元を離れても、大きなトラブルに遭わずに済むように、一通りの知識を習得させていく。</p> <p>次のスライドから順にこれら4ステップの見きわめポイントを説明する。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>子どもの能力の見極めと4つの段階 - ステップ1</p> <p>ステップ1(体験期)を始めるために必要な能力と、目安となるシーン</p> <p>モラル・コミュニケーション面で必要な力</p> <ol style="list-style-type: none"> 約束や決まりを守ることができる 危険なことに会ったら大人に相談できる <p>知識・スキル面で必要な力</p> <ol style="list-style-type: none"> インターネット上には危険なウェブサイトや誤った情報が存在することを知っている 個人情報の大切さ、他人に漏らしてはいけないことを知っている  <p>他人に緊急連絡網を聞かれても答えない</p> <p>危険なことに会ったことを親に報告する</p> <p>保護者がすべきこと 家庭のルールを決めて守らせる</p> <p>●ステップ1(体験期)で必要とする能力と、その能力の習得を見極める、日常生活の場面について。</p>	<p>初めての時期のインターネット利用は、受け身の娯楽手段としての性格が強く、テレビやゲームの延長線上として位置づけられる。</p> <p>そこで、子どもにインターネット利用を始めさせるかどうか(利用させても大丈夫かどうか)のみきわめのポイントとして、家庭でのしつけでも基本的な「保護者との約束を守ることができるかどうか」が挙げられる。また、テレビのような既存メディアとの違いとして、ネット上には危険なホームページやウソなどが存在することへの理解や、ネットではアンケートなどに答えさせる双方向性を備えていることから、個人情報を他人に知らせることの危険さについてもよく理解できている必要もある。</p> <p>小学生にとって身近な具体的シーンとしては、「留守番をしている時に、不審な他人からクラスの緊急連絡網について聞かれる」といった例が挙げられる。予め保護者から言われていた通りに「知らない人には連絡網の内容については答えない」という対応がその時に出来るかどうか、また、その不審な電話がかかってきたことについて、保護者にすぐに報告が出来るかどうかといった点を、子どもの成長ぶりを知る目安とすることができる。</p> <p>また、家庭内のルールが守れるようになるためには、「テレビやゲームは一日一時間まで」などといった家庭内のルールは、ただ宣言するだけでなく、紙に書き出しておくなど内容を明確にするとともに、いったん決めたルールについては、親の都合で簡単に例外を認めたり、覆したりすることのないように、保護者も心がけておく必要がある。</p>

画面イメージ	教材のポイント
 <p>●ステップ2(初歩的利用期)で必要とする能力と、その能力の習得を見極める、日常生活の場面について。</p>	<p>第2ステップにあたるインターネットの初歩的利用期では、受け身の閲覧・利用に加えて、電子メールを使った双方向的な利用も認めることになる。節度のある使い方ができることや、対面・口頭ではないコミュニケーションが行えることが必要になる。また、インターネット特有の、自分がメールに書いて先方に送る内容は、通信事業者など第三者のところにも記録が残る(犯罪捜査の際には調査対象として開示される)ことなども予め知っておく必要がある。</p> <p>具体的なシーンとしては、ドッチボールなどで失敗したメンバーを責めたり笑ったりすることなく、自チームの負けを受け入れることができるかどうかで、「他人への思いやりや相手の気持ちを考えた行動」の面での成熟度を知ることができる。また、メールのやり取りの前提となる、離れた場所にいる他者に文章で自分の気持ちをうまく伝える訓練としては、「祖父母にハガキや手紙を書く」などの機会をうまく利用することが大切になる。</p> <p>また「ゲームをしてもよい約束の時間」(一日〇時間、夜〇時までなど)を子ども自身が守れるようになっていないと、夜遅くまでメールのやり取りを続けてしまい、生活リズムを乱すなどの弊害も心配される。</p> <p>さらに、インターネット上では一つの事柄について、真偽の判断が難しい複数の情報が並立していることが多いが、こうした状況では、それぞれの情報が信用に足る人や組織が発信しているものかどうかなどの判断視点も備える必要がある。新聞記事の読み方などを通じて、こうした情報リテラシー的な能力の成長を支援することも保護者には求められる。</p>

画面イメージ	教材のポイント
 <p>●ステップ3(利用開始期)で必要とする能力と、その能力の習得を見極める、日常生活の場面について。</p>	<p>第3ステップの「利用開始期」では、現在の主流である「参加型」「発信型」のサイトの利用を順次認めることになる。メールでのやり取りに限られていた第2ステップと比べると、ネット経由での他者とのやり取りの範囲は大きく広がる。したがって、コミュニケーションについてのトラブル対応が出来るのか、また親しい友人だけでなく、初対面の他者に対して求められる礼儀や言葉づかいが身についているのかが大切な点となる。そもそも、ネット上のコミュニケーションは対面・口頭よりも、誤解やトラブルが生じやすいことや、自分が書き込んだ情報は原則として全ての利用者から見られる可能性があることについても理解している必要がある。</p> <p>子どもたち(中学生程度でこの時期に差し掛かることが目安)が実際に体験するであろう具体的なシーンとしては、例えば公共交通機関の利用時に、駅係員などに自分の状況等(乗り換えに迷っている、行き先を探している)を説明した上で、適切な援助を受けることができるのかどうかといったものが目安として挙げられる。また、人づてで聞いたうわさ話をそのまま鵜呑みにして他者に伝えるなどの無責任な行動が無いかどうかについても注意が必要となる。</p> <p>保護者は、これから第3ステップを迎える時期の子どもたちを単に子ども扱いするのではなく、実生活の中で多少の失敗も含めてなるべく多くの経験を積ませ、その都度適切な指導を行なうことで、それぞれの場に見合った適切な礼儀や言動などを子ども自身が身につけられるように心がける必要がある。また「こんな時、どうすれば良いのか」について、対処法を子どもと一緒にシミュレーションしておくことも役に立つ。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>●ステップ4(習熟期)で必要とする能力と、その能力の習得を見極める、日常生活の場面について。</p>	<p>高校生相当を目安とする第4ステップは、その後親元から離れても、一人でインターネット利用が最低限トラブルなく出来るようになるための、いわば「仕上げ」の時期にあたる。そのためには総合的な経験を積むことになる。能力面や知識面では既に全く新しく習得するものはなく、これまでに積んだ経験や、習得した知識を総動員して、いかにトラブルを避けつつインターネットが有効に利用できるのかということになる。保護者は、子どもが起こすであろう、ネット利用にまつわる小さなトラブルの一つ一つについて、子どもが援助を求めてきた時には適切にその解決に協力することが必要。</p> <p>このステップに踏み出すかどうかの目安としては、日常生活の中で目的を達成するためのプロジェクトを子ども自身が適切に計画・実行できるかどうかから見ることになる。例えば旅行の行き先や内容をメンバーの嗜好に応じて適切に設定し、調査・計画、予約をとるようなことが出来るかどうか具体的なシーンの例として挙げられる。保護者の取り組みとしては、子どもに任せられるような家庭内での小さなプロジェクトをなるべく多く子どもに与え、その過程を適切に支援することが大切になる。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>●子どもを指導する際に、保護者に求められる知識とスキルのレベル。</p>	<p>しばしば「子どものほうが機器の操作やインターネットについての知識が豊富でとても指導や見守りなど出来そうにない」とする保護者の意見が聞かれる。</p> <p>しかし、インターネットの適切な利用に必要な二つの能力のうち、モラル・コミュニケーション能力については、豊富な社会経験を積んだ多くの保護者にとっては、特段の努力や学習を追加することなく、一定程度の達成度合いが期待できる。したがって、もう一つの能力である「知識やスキル面」について、ポイントを押さえることができれば、インターネット固有の知識や約束事として新たに身につけるべきことはそれほど多くは無いと言える。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>●携帯電話などのポータブル機器を利用させる際に考慮すべき特性と問題点。</p>	<p>段階的な利用を考える際に、携帯電話などのポータブル機器とパソコンとの特性の違いにも注目する必要がある。携帯電話は、まずパソコンと比べて画面が小さいため、単純に表示される情報量が制限されていることで様々な判断を行なうことが難しいだけでなく、心理的にも冷静な対応が行ないにくい。また常に身近に置いている機器として、十分な自制心を備えていないと、メールや交流サイトなどの最新状況が気になるなど、適切な心理的距離を置くことが難しく、依存や中毒症状の状況に陥りやすい。さらには、原則として家の中で使うパソコンと異なり、自宅から離れた場所で使うことが多く機器であり、万一のトラブル発生や子どもの心理的な変化を保護者が察することが難しい。こうした特性を持つことから、子どもネット研では、携帯電話によるインターネット利用は、パソコンでの経験を積んだ後に初めて認めるという考え方を基本に置く。保護者との連絡用などの理由で携帯電話を持たせたい場合には、制限サービスを適切に設定した上で、機器を渡す必要がある。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>●段階的利用の全体図。4つのステップと、各ステップで求められる子どもの能力と、各サービスの利用の目安。</p>	<p>段階的利用の全体像を一覧すると本図のように表すことになる。</p> <p>初めてのインターネット利用から、保護者の下を離れる時期に、一人でもトラブルなく利用できるまでを、大まかに四段階に分けて考える。パソコンでの経験を基本とし、家庭内でのパソコンの置き場所(使わせ方)を適切に切り替えていくとともに、フィルタリング等による接続先の制限も徐々に緩めていく。携帯電話については必ずパソコンでの同等の利用経験の後で利用を認めることとする。知識・スキル面とモラル・コミュニケーション面のそれぞれで、子どもの成長や理解が必要な水準に達していることを確かめた上で(または必要なだけ指導したり、ネット利用以外での経験を積ませた上で)、新しい次の段階へと進むことを認めていく。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<div data-bbox="92 241 730 693"> <p>ステップ1-体験期</p> <p>モラル・コミュニケーション面で必要な力</p> <ol style="list-style-type: none"> 約束や決まりを守ることができる 危険なことに出会ったら大人に相談できる <p>知識・スキル面で必要な力</p> <ol style="list-style-type: none"> インターネット上には危険なウェブサイトや誤った情報が存在することを知っている 個人情報、他人に譲ってはいけないことを知っている <p>保護者が行くべき場所(見守り、利用地域の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用時は保護者が隣で見守る <p>保護者が行くべき場所(見守り、利用地域の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる <p>インターネットの利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話のみ、インターネットの利用を認めない サイト閲覧を認める </div> <p>●ステップ1(体験期)で必要とする能力と、その時期の保護者のかかわり方や、フィルタリングの制限分野、インターネットの利用許可範囲について。</p>	<p>子どもにとっての初めてのインターネット利用時期を体験期と呼ぶ。</p> <p>保護者はこの体験期では、インターネットの特徴の一つである双方向性を制限し、様々な情報や娯楽が手に入る従来型メディアの延長上に位置づけつつ、不確かな情報源が含まれる点や、一日あたりの利用可能時間など、節度ある利用の経験を積ませる時期として取り扱いたい。具体的には、パソコンでは管理者権限等を活用して、電子メールソフト(ウェブメール含む)は使わせない、ウェブサイトは閲覧型のみ利用を認める時期。パソコンの利用時には保護者が必ず横で見守り、子どもの危険な操作や利用先についてその都度指導する。</p> <p>従来型メディアとは大きく異なる点として、危険なホームページや誤った情報も存在することなどを、子ども自身に理解させる必要がある。</p> <p>携帯電話については、保護者との通話は認めるが、機能制限サービス付の契約とし、インターネット利用は認めない。</p>
<div data-bbox="92 1094 730 1545"> <p>ステップ2-初歩的利用期</p> <p>モラル・コミュニケーション面で必要な能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、適切に文章を書くことができる 他人を思いやり、相手の気持ち考えた行動ができる 健康や学習を優先し、節度のある使い方ができる <p>知識・スキル面で必要な力</p> <ol style="list-style-type: none"> メールなどインターネット上の情報発信は、書いた内容の記録が必ず残ることを知っている 情報が正しいかどうかを調べて、信憑性を確認することができる <p>保護者が行くべき場所(見守り、利用地域の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用時は保護者が隣で見守る リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる <p>保護者が行くべき場所(見守り、利用地域の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者など特定の相手とのメール利用を認める メールの利用を認める </div> <p>●ステップ2(初歩的利用期)で必要とする能力と、その時期の保護者のかかわり方や、フィルタリングの制限分野、インターネットの利用許可範囲について。</p>	<p>次に進むべきは「初歩的利用期」になる。</p> <p>保護者はこの時期を通じて、インターネットの最大の特徴である双方向性を、まず「メールの適切な利用」を通じて子どもにさまざまな経験を積ませたい。遠隔の相手と、もっぱらテキスト情報のみで意志の伝達を行なうことの難しさを知り、相手の状況を想像できるようになることで、次の段階となるウェブサイトでの情報発信の基礎を築くことができる。</p> <p>具体的には、パソコンではメールのやり取りを可能にする。一方、ウェブサイトについては、引き続き閲覧型のみ利用を認める時期とする。パソコンの利用時には体験期と同様、保護者が必ず横で見守り、子どものメールのやり取り相手を把握するとともに、子どもが書き上げた文面の最終確認や校閲を行ない、推敲の必要性を指摘することが大切な時期。</p> <p>携帯電話でのメール利用も必要に応じて認めても構わないが、やり取りする相手を保護者や親族・兄弟などに限定することが前提。パソコンでのメールのやり取り経験を一定程度積むまでは、友人とのやり取りは認めない。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<div data-bbox="1501 241 2139 693"> <p>ステップ3-利用開始期</p> <p>モラル・コミュニケーション面で必要な能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 礼儀の意図を理解し、時と場合に応じた適切な言動を用いたり、文章表現をすることができる よく考えて行動し自分の行為に責任を持つことができる コミュニケーショントラブルが生じた場合には、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる <p>知識・スキル面で必要な力</p> <ol style="list-style-type: none"> インターネット上のコミュニケーションは、対面の場合に比べて情報量が制限されるので誤解やトラブルが生じやすいことを知っている インターネット上に書き込むことは、世界中に情報を公開することだと知っている インターネットを利用する上で必要な基本的な法律やルールを知っている <p>保護者が行くべき場所(見守り、利用地域の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用時は保護者が隣で見守る リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる <p>保護者が行くべき場所(見守り、利用地域の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者が定めた特定少数サイトの閲覧利用を認める 自分の管理するページでの発信を認める(ブログ・ホームページ) 不特定多数の場での意見交換を認める(掲示板) </div> <p>●ステップ3(利用開始期)で必要とする能力と、その時期の保護者のかかわり方や、フィルタリングの制限分野、インターネットの利用許可範囲について。</p>	<p>いよいよ「利用開始期」に差し掛かり、ウェブサイトについても本格的な利用を開始する。保護者はこの時期を通じて、子どもが初歩的利用期に培ったテキストベースでのオンラインコミュニケーション力を、特定少数が相手のメールのやり取りだけでなく、不特定多数の目に触れる、より広い世界でも安全に実用として活用できるように広げる手助けをすることになる。</p> <p>具体的には、パソコンでは自身が管理するホームページを持つことを認める。具体的にはブログやホームページ、ブログ等のサービスを利用するのが一般的だろう。ただし、最初のうちは、コメント欄を閉じておいたり、付属機能としての掲示板については利用しないようにすることが大切なポイントになる。責任を持って自身の意見や態度を広くウェブ空間に向けて発信することに集中することから始め、他の利用者からの反応に対応したり、複数の利用者の交流の場をうまく維持管理するなどの経験は、その後にするという、手順を踏む必要がある。また、不特定多数が意見や情報の交換を行なう掲示板タイプのサイトについても、この時期に利用を認めることになるが、いきなり書き込みを認めるのではなく、一定期間は閲覧だけに留め、どのような書き込みが適切なのかについて、判断力を養う時期を持つことが重要。パソコンの利用時に、保護者が必ず横で見守る必要は薄れてくるが、子どもにとっては、メール以外に双方向的な利用に出ていくことは、想定できないトラブルに遭う可能性も高まる時期であり、引き続き、目の届く場所にパソコンを設置して、必要な支援を随時与えられるような準備は欠かせない。</p> <p>携帯電話では、メールの利用を本格的に許すことができるが、サイトの利用については、学校の連絡掲示板など、日常生活や通学に欠かせないごく少数の限られたサイトのみが閲覧できるように、フィルタリングの設定を調節した上で使わせるべき時期。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<div data-bbox="92 241 730 703"> <p>ステップ4-習熟期</p> <p>モラル・コミュニケーション面で必要な能力 16. 契約の内容を正確に把握し、適切に行動することができる 17. 情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動ができる</p> <p>知識・スキル面で必要な力 18. インターネットの特性(公開性・記録性・匿名性・公共性・侵入可能性)について理解している 19. トラブルを事前に予測し、できるだけ回避するための工夫ができる</p> <p>保護者が行なう行動(見守り、利用範囲の制限) ・リビングルームなど在宅している保護者の目の届くところで利用させる ・家庭の状況、子どもの能力や意志に応じて、自室へのパソコン持ち込みも認める</p> <p>インターネットの利用について ・フィルタリング付き(ブラックリスト)での閲覧利用を認める ・不特定とのメール含む発信の利用を認める ・意見交換やオンライン交流を認める ・同期的対話利用を認める(チャット) ・オンライン交流を認める(SNS) ・ネットでの買い物を経験する</p> </div> <p>●ステップ4(習熟期)で必要とする能力と、その時期の保護者のかかわり方や、フィルタリングの制限分野、インターネットの利用許可範囲について。</p>	<p>子どもが親元を離れる前に「一人で利用できるための習熟期」を通過する必要がある。子どもたちは高校を卒業した後、一人でインターネットを利用していくことになるため、そのとき遭遇しやすいトラブルのパターンを、出来るだけこの時期に知っておく、または自分でも小さなトラブルを経験しておくことが、成人してからの取り返しの付かないトラブルを回避する力を身につけるために必要なことになる。この時期では、チャットや総合的な交流サイトなど、より難度の高い双方向利用サイトや簡単な買い物サイトなども経験しておきたい。その中で、これまでの学習や経験を生かし、自身のプライバシーなどを守りながら、サイトを適切に利用できるようになることがこの時期の目標の一つとなる。具体的には、パソコンでは引き続きフィルタリングを利用するが、その制限は次第に緩やかなものとしていく。パソコンの設置場所も、自律的に利用する習慣が身につけており、本人が望み、家庭の事情が許す場合には、自室への持ち込みも可能とする。携帯電話の利用範囲も、最終的にはほぼパソコンと同等の水準まで認めることになるが、保護者からは子どもの利用実態や精神的な変化などが見えにくくなるため、引き続き十分な配慮が必要。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<div data-bbox="1498 241 2148 735"> <p>「ゴール」として目指すもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インターネットを安全に活用していくためには、成長段階に見合った「必要経験」と「知識の習得」が必要 ■ 「ステップ4」はゴールではなく、あくまで最低限の知識とスキルを身につけたスタート地点 ■ インターネットと上手に付き合える大人になることがゴール  </div> <p>●段階的利用の目指すべきゴールについて。今回提案する4つのステップは、あくまで必要な経験と知識の習得が目的であることを解説。</p>	<p>インターネット利用の利便性が強調されることは多いが、実際には娯楽としての利用や手続きや予約、買い物を簡単にするという意味での活用がほとんどと言える。発信型・参加型のインターネット利用を本当の意味で活用できている例は、論文や作品、意見の発表といった学術系、芸術系の利用者等を除いてはまだそれほど多くないのではないかと。その一方で、子どもたちが巻き込まれる犯罪被害やトラブルの多くは、参加型・発信型の利用であり、保護者にとってはそのバランスをどうとすべきなのか迷って当然とも言えるだろう。各家庭の保護者は、子どもたちに実際にインターネット利用環境を与えるにあたっては、どのような状況(レベル)を、成長した我が子のゴールと位置づけるのかについて、冷静になって話をする必要があらう。冒頭に出てきた自動車教習所の例と同様に、一流のレーシングドライバーになることが目標などであれば、「一通りの安全な利用」だけではなく、効果的な発信や表現上の工夫といったものについても学ぶ必要があるし、最新のサービスの上手な使いこなしも求められる。しかし、一般公道を事故無く運転して目的地まで楽しく移動できるだけ良いのであれば、経験や習得すべきポイントも違ってきて当然である。「インターネット利用ぐらい出来なくて、自分の子どもが周囲についていけなくなるのではないかと」いった漠然とした不安からか、あらゆるサービスを制限なく子どもに与えてしまっている保護者も多いように思われるが、ここでいったん、ゴール感についての確認をしておくことがオススメである。なお子どもネット研の段階的利用モデルでは、「最低限の安全運転」に必要な経験と知識の習得をゴールとして設定している。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>本格的にインターネット利用をさせていない場合</p> <p>ステップ1から進む理想パターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パソコンのネット利用から始めること <ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者による見守りや指導が行いやすい ■ 利用ソフトの制限やフィルタリングサービスの活用 ■ 次のステップを子どもに伝えてもよい ■ 携帯電話を持たせる際は十分な制限を設けること <ul style="list-style-type: none"> ■ 通話のみ、保護者とのメール利用のみといった機能制限 ■ 学校等で必要とする連絡掲示板のみ利用といったサイト制限  <p>● 段階的利用モデルの利用の一例として、これから子どもにインターネットを利用させる場合に、行うべき保護者の対策と、モデルの活用方法を解説。</p>	<p>まだ子どもにインターネット利用を認めていない保護者であれば、段階的利用モデルに沿った理想的な経験と知識の習得が可能である。この場合、携帯電話やゲーム機ではなく、パソコンを使ったインターネット利用から始めることが望ましい。</p> <p>既に触れたように、ポータブル機器での利用には特有の制約や難しさがある。保護者の見守りや指導が行ないやすいパソコンでの利用から進めるべきと考えられる。その際にも、管理者権限と利用者の権限をしっかりと分けて、使ってもよいソフトウェアを保護者が制限することが必要。またフィルタリングソフトを使って、それぞれの利用段階にて認められる分野のサイトだけを利用できるように制限をかけていく。各ステップで認める利用の範囲や見きわめのポイントは、大まかに子どもに伝えても構わない。ただし、一足飛びに次々とステップを踏んでいくことは子どものためにもならない。それぞれのステップにて一定程度の時間、さまざまな経験を積むことが望ましい。厳密にその通りである必要はないが、各ステップに記載されている程度の進度(目安の学齢、タイミング)でのステップアップがよい。また進学や進級に結びつけて次のステップに進むことを許すという方法は、子ども自身にとっても保護者にとっても、分かりやすい区切りとして作用するだろう。なお、地域的な事情等により、携帯電話を持たせることについて検討が必要な場合もあるだろう。この場合も、常にパソコンでの経験が先行するように、必要最小限の機能で利用できるように、各種制限サービスを組み合わせての契約が必要。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>既にインターネット利用を始めている場合</p> <p>ステップ途中から開始する修復パターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現状の利用状況の把握 <ul style="list-style-type: none"> ■ 利用範囲や利用方法の程度を見極めることが必要 ■ 子どもの能力の確認 <ul style="list-style-type: none"> ■ 「取り消せないこと」「公開されていること」「匿名性が無いこと」「自分が損をすること」の理解度の確認および指導が重要 ■ 親が察することの出来る範囲で使わせる <ul style="list-style-type: none"> ■ 急に取り上げることは反発といったリスクにつながる恐れがある ■ 保護者が子供の能力状況を意識しながら見守っていくことが重要  <p>● 段階的利用モデルの利用の一例として、既に子どもにインターネットを利用させる場合に、行うべき保護者の対策と、モデルの活用方法を解説。</p>	<p>既に携帯電話やゲーム機、パソコンを十分な制限なく子どもに利用させている保護者が、実際には相当多いであろう。</p> <p>その場合でも、段階的利用モデルは、「我が子には何が欠けているのか」「どんなリスクがあるのか」「リスク回避のためには何を学ぶ必要があるのか」といった状況判断に役立ててもらえるものになっている。</p> <p>なお前提として、保護者が認めてしまった(与えてしまった)インターネット利用環境(パソコンや携帯電話)を、十分な説明もなく、いきなり子どもから取り上げることは相当に難しいということがある。</p> <p>子どもにとっては、「親が認めたものなのに」という反発も感じるようになるし、大人が考えるような「便利な」ツールとしてだけではなく、既に日々の生活の一部として、友人との関係を維持させるためにも欠かせないツールとして深く根をおろしているケースも多い。その程度を見きわめ、どの程度の修復・軌道修正が可能なのかについて軟着陸の方法を個別に考えるしかないだろう。</p> <p>もし、高圧的に「取り上げ」等を行なうと、子どもは保護者に隠れてインターネット利用をするようになってしまう。この場合、トラブル(小さなものであれば、どんな子どもでも必ず起こす)への対処において、保護者が適切に介入、支援や指導をすることが難しくなるため、好ましいやり方ではない。</p> <p>ほとんどの場合、子どもたちのインターネット利用は、特に制限が無ければ、すぐにステップ4の交流サイト等を利用した発信にまで到達している。その基礎となる、「情報の真偽の判断力」「発信情報は取り消せないこと」「匿名性は無いこと」を理解しているかどうか、まずは知識面での確認は欠かせない。</p> <p>また、モラル・コミュニケーション能力面については、一朝一夕に習得したり向上できたりするものではない。各ステップに記載されている「具体シーン」なども参考にしながら、ネット以外の日常生活経験を通じた能力上昇を保護者がひとつずつ意識していくことになる。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド</p> <p>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</p> <p>まとめ</p> <p>子どもだけでなく、保護者も学び、変わる必要があります 保護者が正しい知識を持ち、適切に判断し対処することが最も重要です</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもとの対話や日頃の生活に目を向け、気を配りましょう トラブルを未然に防ぐために、保護者間での情報交換を行いましょう どのような事に興味関心があるのか、子どものインターネットの利用状況を把握し、いけないことを行った場合にはきちんと指導をしましょう 子どもに使い方を教えてもらい、保護者も実際に使ってみましょう <p>インターネット特有の問題は少なく、本質的には子育ての一環です</p>  <p>●子どもたちを危険から守り、正しく導くためには、まずは、保護者が持たせる意味や必要な機能を再確認した上で、子どもの能力に応じて、利用範囲を許可していくことが大切。</p>	<p>子どもたちのインターネット利用を真剣に考えると、われわれ大人も一緒になって学び、変化する必要があるということに行き当たる。インターネットは歴史が短い、新しくしかも強力なメディア。その適切な利用方法や学習方法、リスク回避のあり方については、まだまだ定石のようなものが確立されていない。</p> <p>また、インターネットという存在に目を奪われがちであるが、子どもたちがそこで表現し、ふるまっていることは、あくまでも日常生活の延長線上である。子どもが何に興味を持っているのか、なぜ過剰にネット利用にのめり込むのか、その圧力となっているものが何なのかといった、各家庭の保護者にしか見抜けず、また状況を変えられないようなことが、問題解決には最も有効。</p> <p>子どもの生活にしっかりと目を向けて、間違っても携帯電話を「子守りに便利なオモチャ」代わりにしないような、保護者側の意識の見直しも必要になる。</p> <p>さらに、子どもの同級生の保護者などとの情報交換や交流も、問題を未然に察知・防止するためにも有効な取り組み。家庭ごとに孤立することは得策ではない。学校ぐるみ、地域ぐるみでさまざまな問題に取り組むを進めることが理想の姿と考えられる。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>小中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド</p> <p>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</p> <p>子どもたちのインターネット利用について考える研究会 公式サイト http://www.child-safenet.jp</p>  <p>●「中高生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド」も提供しています。詳しくは子どもネット研公式ホームページをご覧ください。 http://www.child-safenet.jp/</p>	